

## 子どもたちが抱える課題を共有して、 私たち大人が手を組み大胆に努力すること

今年、子育て運動40年目の節目の年。子育て推進協議会のトップである工藤市長に、子育て運動の成果や課題についてインタビューを行いました。その概要についてお伝えします。

○聞き手：推進協事務局長 本間正博 ○7月19日 市役所にて

### 【本間】

おはようございます。本日は、このように時間をとっていただきまして、本当にありがとうございます。今年、子育て運動が始まって40年目の節目の年です。会長である工藤市長さんから、子育て運動について話を聞かせて頂きたいと思いました。よろしくお祈いします。

【工藤市長】はい、よろしくお祈いします。

### 子育て運動始まって40年、子育て運動の これまでの成果と課題について

### 【工藤市長】

子育て運動が始まったのが昭和53年という頃で、稚内が開基百年そして市制施行30年という時代だったと思います。そこからスタートして、学校、家庭、そして地域が一体となつての取組みが40年も続いていることに、本当に敬意を表するばかりです。

今、こうやって私が会長という立場で、日々の取組を見ていると、子どもに関わる大人が実に主体的に取り組んでいる姿があり、この街の風土になっていると感じています。40年という長い歴史の中で、「子育て」を大切にする街になってきていると思います。最近一番感じたのは、昨年11月に、子どもの貧困シンポジウムで、市内4地区の発表がありました。あの時、私も会場で話を聞いていて素晴らしい取り組みだと思いました。北大の松本教授も同様に言っていました。

また、市制70年の式典でも、子ども達が未来の稚内に向けてメッセージを発表していて、非常に意味の



会長 工藤 広 稚内市長

あることであるし、この街だからこそできるプログラムだと思っています。そういう意味では、子育て運動が街のあちこちで取り組まれていることを実感しています。

そして、昭和58年の9月1日に発生した「大韓航空機事故」を契機に「子育て平和都市」を宣言しました。このことが、稚内市の子育て運動をさらに深めるきっかけになっていると感じています。歴史上も悲しい事故ではありましたが、そのことがきっかけになり子育て運動の方向性がより明確になったと思います。単なる対策ではなく、「子育て運動」は大人たち、市民レベルの運動に成長していると思っています。

その点では、子育て運動の体制はできあがってきていると思います。学校をはじめ、地域、家庭、行政も、子どもたちが抱える課題（たくさんあると思うんですけども・・・）についてもっと共有して、解決のための取組について街をあげてすすめることが必要だと思っています。子育てに携わる皆さん方としっかり手を組んで取り組んでいきたいと思っています。

### 【本間】

ありがとうございました。今、「主体的」という話がありましたが、私も思うのが、ほとんどの人が「誰かにやらされている」とは思っていない。運動が積み上げられてきていると感じました。

二つめにお伺いしたいことです。稚内は今、教育だけでなく、貧困も含めた福祉や医療について、街をあげて取り組んでいます。子ども達を健やかに育てるための街づくりを考えている。そういう点では、今後、

子育て運動とそれらの取組をどう展開していくのか、お考えをお聞かせ下さい。

**これからの子育て運動、貧困問題をはじめ  
福祉・医療との関係は・・・**

【 工藤市長 】

今年4月に少し市役所の機構をさわりました。その中の目玉の一つが、子ども・子育て担当監、それから地域共生担当監というものをそれぞれ作りました。今の時代は、どんどん変化していて、例えば、2025年になると多くの人が後期高齢者になってしまう時代を迎えつつあります。それに対して、複合的というか、いろいろな観点から取り組んでいかなければならない、もう教育だけ、福祉だけ、市民生活だけではなく複合的に捉えて、取り組みを進めて行かなきゃならないという意味で作りました。

校長先生がおっしゃったように、決して教育だけの問題でもないし、福祉だけで解決できる話でもないと思います。稚内市は20年近く前に、子どもの課題に行政が一元的に関わっていきこうという趣旨で「こども

課」を作りました。今回は、更に強化したつもりですが、我々も子どもの問題すべてが、行政で解決できるわけではないと思っています。貧困対策、児童虐待や「いじめ問題」等々、現場の皆さんにお任せだけではなく、行政としてしっかりとした体制をとり、進めて行かなければならないと思います。今年スタートさせたばかりですが、非常に大事な課題だと私自身思っています。

【 本間 】

「こども課」がつくられた経緯は、貧困学習会で教育長さんから聞きました。あらためて、稚内の教育委員会やこども課は、現場を支える存在だなと思っています。

それでは、3つ目ですけども、子育て運動を進める上で、学校とPTAが要ではないかと思っています。

**子ども達にとって一番身近な存在である  
学校・保護者に期待することは・・・**

【 工藤市長 】

まず学校については、稚内に生まれた子どもたちの学力が一定レベルに達していなくて、結果として人生の選択肢が狭められたということは、間違ってもあってはならないことだと思います。勉強がわかり、卒業した時に「楽しかった」と次のステップに向かえる子どもたちを育てるためにも、「勉強がわかり、楽しい学校」が必要だろうと思います。そのためには、先生方ががんばって頂きたいと思います。

それから家庭では、子どもをしっかりと育てて欲しいし、しっかりしつけて頂きたいと思います。そのためには、子どもの気持ちが満たされ、学校と同じように楽しい家庭であって欲しいと思います。先程、「共生社会」の話をしました。かつては隣近所というか地域で子育てを支える力があつたと思いますが、今は昔のようにはいきません。子どもに思いやりの心をもって、しっかりと子どもたちを包んで欲しいと期待しています。そして、それは家庭ごとに「がんばれ」というのではなく、その旗振り役を担うのがPTAなのだと思います。

子育て推進協の要は、家庭であり、地域であり、学校だと思います。そこが中心となってみんなが関わっていく、非常に大事だと思います。コーディネーターとしての活躍を推進協には期待しています。

**最後に、これからの稚内を背負っていく  
子どもたちへのメッセージ**

【 工藤市長 】

この街は国境に位置するため色々な出来事に遭遇し、そうした意味で、我々は平和を守る意識を強く持つことを宿命づけられ、平和を愛する大切さを広げる役割も担っています。子ども達は、このふるさと稚内で、大人になるかもしれないし、他の所へ行ってそれぞれの道に進むかもしれないけども、稚内で育つたということを誇りに思って生きていってほしい。そして機会があれば、また稚内に戻ってきて、この街の発展に関わって頂ければうれしいですね。まさに10年後、20年後には街づくりの主役に育っている。そんなことを大いに期待しています。

【 本間 】

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。